
元彼たち

fuuukaaa

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

元彼たち

【Nコード】

N81410

【作者名】

f u u k a a a

【あらすじ】

ノンフィクションで今までの元彼たちの話を短編で書いています。

DV・ヤンキー・ヤクザ・ドラッグ・浮気、、

貴方の元彼は、どんな方でした・・・？

今のわたしは、とても幸せです

ここまでにとどり着くのにこんな元彼と出会ってました。

DV男　く出会いく（前書き）

この物語は、全てノンフィクションです。

各　物語は、出会った順に描かれています。

DV男　く出会い

元旦那と別れ

人を本気で好きになる事が出来なくなつて
数年経った頃・・・彼と出会いました。

27歳のトラックの運ちゃん

とても優しく物知りでユーモアな人

性格は、タイプだったけど

当時のうちじゃ、誰かに惹かれるなんてなかった。

いつもみたく適当に付き合つて

めんどくさくなれば切ればいいって思つてた。

彼は、既婚者の二児のパパ

知り合つた頃は、既に離婚の手続き最中

うちと付き合つた頃には、離婚してた。

飲み会が好きな彼と飲み会が好きなうち

逢う機会も多くなつて

彼のアプローチで適当に付き合つてたのに
いつのまにか本気になつてた。

その頃は、まさか元旦那以外誰かをまた

本気になれるなんて信じられなくて

好きだつて自分で気づくのに時間がかかった。

そうなれた自分を彼に感謝もしてた。

だから数年ぶりに本気の恋を出来たうちは、

彼を運命なんじゃないか・・・

うつん、彼で最後までもいいなって思うようになってた。

一緒に暮らし始めたのは、付き合って1ヶ月後。

共働きで平凡で幸せな毎日を過ごしていた。

気づけば3ヶ月の時間が流れ

それから彼は、どんどん変わっていった。

まさか彼がこんなにも豹変するなんて思いもしなかった・・・

・・・ねえ、何で変わっちゃったの・・・

DV男　く豹変く

6年勤めていた会社にクビだと言われ
毎日ゲームとPCの睨めっこしては、家に引きこもる事が数ヶ月続
いた。

それから言い合いをすれば
殴る、蹴る、引きづり、首を絞め、物も投げる。

そんな彼に嫌気をさし何度別れを思っても
情があつたうちには、離れる事が出来なかった。

気に食わなければ手をあげる

気持ちがあるうちには、弱み

ただひたすら我慢し、ただ毎日泣いて

彼が最初の頃に戻る事を信じていたのかも・・・

気づけば半年近く経ち

家の支払いは、全部うちが払いつつも

少ない給料では、持たず家賃滞納で家を出るハメになった。

家を出ても次の家なんてないし

彼も変わらないまま何も考えもない

何も行動も起こさない

明日寝る場所さえも一緒に考えてくれない彼
いい加減そんな彼に呆れ
別々に荷物をまとめ別れを告げた。

彼は、あっさりと別れを認め

親切にうちの引越し先の寮に荷物まで運んでくれた。

それが間違いだったのかも

うつん、出会った事さえ間違いだと

その後起こる嫌がらせの事件で思った。

D V男 く嫌がらせく

夜の仕事をしていたうちは、
店の寮を借りて一人で暮らし始めた。

4階建ての1階のアパート
とても綺麗とも言えないが
これから新しく前に進んだって
彼からの呪縛から開放されたみたいで
うちは、イキイキしてた。

不思議な事に
殴られてもずっと離れられなかったうちが
この時離れる事が出来て嬉しくてホッとしていた
だから未練も情も消えていたんだ

彼からの連絡は、酔っ払ってる時以外ない
もう切りたいと思ってたうちは、
彼からのメールも電話も出なかった。

だけど酔った彼の連絡は、しつこく
時たま家の前に来ては、玄関のドアを叩くようになった。

週6働いて決まって朝方に帰る
付き合ってた頃も同じ仕事場だったから
彼もわかっていたんだろう

日が経つにつれ酔った彼が毎朝

家の前まで来て

ドアを叩く事が多くなっていた

” やり直そう ”

” 別れた覚えはない ”

” ドア開けてよ ”

ドアを叩きながら彼は、玄関越しで話しかける

だんだんそんな彼の言動に恐怖を感じ

自分の家なのに帰るのも嫌になっていた

そんな続く中

仕事帰りに恐る恐る家に帰ってみると

玄関の外まで響く笑い声が…

玄関を開けるとそこには、彼と彼の男友達
が酒を飲みながら楽しそうに笑っていた。

・・・なんでいんの？・・・

彼は、ベランダのドアから入ってきたらしい
戸締りは、いつも家を出る前に確認してる
その日だってベランダも閉まっていた

・・・なんで入れたの？・・・

ベランダの鍵は、完全に閉まっていなく
押して引いたら開いたと言われた・・・

淡々と説明する彼

そこまでして入った彼の行動に言葉が出なかった。

何か言いたい…

追い出したい…

でも言えない……

酒入ってる彼に何か言えば

殴られる事 身体が覚えていたのだ

だから彼らの笑い声を隣の部屋で

震えながら聞く事しか出来なかった

親や周りに軽く話した事は、あった

ただどうちの事で周りに迷惑かけたくない

そんな性格なうちだから

自分で解決しようと思った

誰かに話して相談していたら

何か違ったかな……

毎日怯えなくすんだかな……

怖い……彼が怖い……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8141o/>

元彼たち

2010年11月9日20時59分発行